

# APIR Trend Watch No. 79

## DMOのインバウンド誘客の取組とその効果(2)

-マーケティング・マネジメントエリアに着目した分析：和歌山県の事例から-

APIR 研究統括兼数量経済分析センター長 稲田 義久  
調査役兼研究員 古山 健大  
研究員 野村 亮輔

### 要旨

本稿では和歌山県の主要な観光地域づくり法人(以下、DMO)を取り上げ、『観光客動態調査報告書』や観光庁の『宿泊旅行統計調査』の個票データを基礎統計として用いて、マーケティング・マネジメントエリア(以下、マネジメントエリア)別にインバウンド誘客の取組とその成果を分析する。分析を整理し、得られた含意は以下のようにまとめられる。

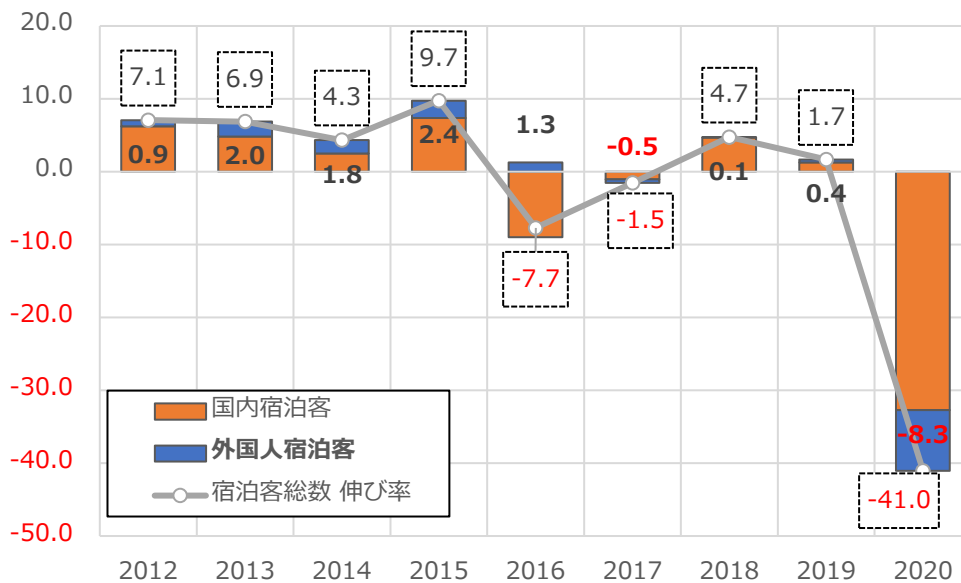
1. 和歌山県の外国人宿泊者比率を DMO のマネジメントエリア別にみれば、高野町では約 5 割程度となっている。田辺市熊野ツーリズムビューロー(以下、TKTB)地域では約 9%程度となっている。また、白浜町では 7~8%台で推移している。
2. 外国人宿泊者を国籍別にみれば、(1)高野町は、欧米豪のシェアが 3 割強と高く、一方、アジア地域のシェアも 1 割程度を占めている。(2)TKTB 地域では、東アジア地域のシェアが 5 割程度と高い。しかし、(3)TKTB 地域の一部である「熊野古道」ルートに限定すれば、欧米豪のシェアが 5 割弱に大幅上昇。この背景には TKTB の欧米豪に対する同ルートへの誘客効果がみられる。(4)白浜町は、東アジアをターゲット層としているため、そのシェアは 7 割超と高い。一方、欧米豪のシェアは拡大しているが、高野町や TKTB 地域と比較すると小さい。
3. TKTB 地域と熊野古道ルートの比較から、同ルートの起点旧田辺市、終点新宮市や那智勝浦町ではアジア地域のシェアが高い。これは白浜町からこれらへの地域へとアジア人が周遊している可能性が高く、一層の地域連携の高まりが周遊性を拡大させる可能性を示唆している。
4. 持続可能な経営の観点からすれば、これまで多くの DMO では、単価の高い欧米豪へとインバウンドターゲット層をシフトさせてきたが、コロナ禍でこの戦略が変更を迫られている。インバウンド需要が完全に消滅している現在では、回復を見据えこれまでの内外比率を見直すことが喫緊の課題となっている。

## はじめに

人口減少下の日本の成長産業として重要視される新たな観光業では、DMO にその中心的な役割を果たすことが期待されている。新たな観光業においては、どちらかと言えば、急速に伸びてきたインバウンドの誘客戦略に力点を置いてきたが、コロナ禍はそれに大きな反省を迫った。すなわち、コロナ禍後のフェーズを想定して、インバウンドのみならず国内を含めた観光産業全体の高付加価値化を目指すことが課題となっている。

我々は関西の各府県の主要な特徴ある DMO の活動を取り上げ、その成果(誘客効果)を紹介するとともに、基礎統計に基づき観光政策の効果の数量的分析と課題の抽出を意図している。本格的な観光政策の数量分析に進む前の段階として、まず京都府、和歌山県、奈良県の特徴ある DMO を取り上げ、政策分析の基礎的研究を予定している。基礎的研究シリーズの前回報告(Trend Watch No.76)では、京都府の DMO を取り上げ、インバウンド誘客の取組とその効果を分析するとともに、課題を抽出した<sup>1</sup>。

図1 和歌山県における観光客数の動態：延べ宿泊者ベース



注：白抜き数値は延べ宿泊客総数の伸び、他の数値は外国人延べ宿泊客数の寄与度。両者の差は国内宿泊客の寄与度となる。

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

今回は、和歌山県の観光業(特徴ある DMO)を取り上げる。図1は最近の和歌山県における観光客の動態で、延べ宿泊者数の前年比伸び率とそれへの寄与度を国内客と訪日外客とに分けてみたものである<sup>2</sup>。この間(2012~20年)で、延べ宿泊客総数の伸びが減少したのは、16年(-7.7%)、17年

<sup>1</sup> 分析の詳細は稲田・古山・野村(2022)を参照。

<sup>2</sup> 観光客数は、観光入込客数 = 日帰り客数 + 宿泊客数で定義される。後掲参考図表1を参照。本稿では主に宿泊客数の動態に注目している。

(-1.5%)、そして20年(-41.0%)の3年である。16年は、14年の消費増税による景気停滞の影響もあり国内客が大幅減少(-9.0%ポイント)したことに加え、訪日外客も前年(爆買い)の反動で伸びが減速した(15年：+2.4%ポイント→16年：+1.3%ポイント)。また20年には、コロナ禍の影響が大きく出ている。図が示すように、この間、国内景気(所得の変動)の影響を受け、国内宿泊客の全体への寄与度は大きく変動する一方で、訪日外客は一貫して全体の押し上げに寄与してきた(後掲参考図表1参照)。訪日外客が減少したのはコロナ禍の20年を除いて17年<sup>3</sup>のみである。和歌山県の外国人宿泊客の宿泊客総数に占める比率はこの間7%ポイント弱(12年：2.5%→19年：9.1%)と着実に上昇しているが、前回取り上げた京都府の25%ポイント(12年：14.2%→19年：39.1%)の上昇には及ばない。和歌山では国内客のシェアが京都府に比して依然高いことがわかる。以下では、このような特徴を持つ和歌山県観光業を対象に、観光政策の取組とDMOによる誘客効果分析を行う。

## 1. 和歌山県における観光施策の取組

アジア太平洋研究所(2021)で明らかにしたように<sup>4</sup>、和歌山県では関西各府県に比して、観光行政を推進する人員体制及び予算規模が大きく<sup>5</sup>、県が率先して県内にある各観光資源の宣伝を内外に行っている。また、DMOも各地域が持つ観光資源の魅力を外国人に訴求するために、海外への宣伝活動などを精力的に行っている。本節では、次節の分析の理解を容易にするために、まず和歌山県の観光施策の取組(1-1.)及び県内DMOの活動状況(1-2.と1-3.)を簡単に整理しておこう。

### 1-1. 和歌山県の観光行政の現状

和歌山県では、『和歌山県観光立県推進条例』を既に2010年に制定しており、それに基づき『和歌山県観光振興実施行動計画』を毎年策定し、観光行政を展開している。コロナ禍を受けて、新たに策定された最新の『和歌山県観光振興実施行動計画(観光振興アクションプログラム2021)』によれば、(1)安心・安全な観光地の形成、(2)「新たな旅のスタイル」の普及・促進、デジタル化の推進、(3)「蘇りの地、わかやま」キャンペーンの展開、(4)インバウンドの段階的回復に向けたプロモーション展開が主要施策の内容となっている。

うち、国内観光客誘客については、「蘇りの地、わかやま」キャンペーンを展開し、県内観光需要の喚起策を実施、コロナ禍からの観光産業の振興を行っている。また、県内の自然を活かした「水の国、わかやま」や太平洋岸自転車道と連携した「サイクリング王国わかやま」などの発信にも取り組んでいる。

<sup>3</sup> 要因として中国からの団体客の減少が指摘されている。平成29年『観光客動態調査報告書』

<sup>4</sup> 詳細はアジア太平洋研究所(2021)の第5章2節及び4節を参照。

<sup>5</sup> 『観光客動態調査報告書』を中心に観光統計の整備が着実行われ、政策に活用されている。

インバウンド誘客については、アフターコロナに対応するように、アウトドア観光の推進や国立公園や南紀ジオパークと連携して誘客促進を行う予定である。ターゲット層としては、アジア、欧米豪と2つのカテゴリーを想定している。アジア向けでは「安全・安心」や「健康」、「アウトドア(屋外型)」、「サスティナビリティ(持続可能性)」をキーワードとした体験プログラムやツーリズムを、欧米豪向けでは世界遺産「高野山・熊野古道」などの歴史や伝統文化に加え、豊かな自然を生かした体験プログラムやガーデンツーリズムに取り組む予定である。

次項では、観光地域づくりを支えている DMO に注目し、その活動状況を示す。

## 1-2. 和歌山県内 DMO エリアの整理

和歌山県では、2021年11月時点で登録 DMO が7社(地域連携 DMO : 1社、地域 DMO : 6社)、候補 DMO が3社(地域連携 DMO : 2社、地域 DMO : 1社)存在する(表1)。

和歌山県の DMO の特徴は、世界遺産の高野山や熊野古道など自然、歴史文化を背景に活動している高野町観光協会、TKTB や紀州の環がある。また、県内で生産している農産物や海産物など食文化を背景に活動している高野山麓ツーリズムビューロー、紀の川フルーツ観光局や那智勝浦観光機構がある。民間の空港運営会社を中核に周辺自治体と連携する DMO に南紀白浜エアポートがあり、活動の背景は様々である。なお、2021年11月に県内全体をマネジメントエリアとする和歌山県観光連盟が登録されている。

表1 和歌山県 DMO の登録状況及びマネジメント対象の市町村

登録区分	申請区分	名称	マーケティング・マネジメント対象とする区域(自治体単位)
地域連携	登録	(一社) 高野山麓ツーリズムビューロー	橋本市、かつらぎ町
	候補	(公社) 和歌山県観光連盟	和歌山県
		(株) 南紀白浜エアポート	白浜町、印南町、みなべ町、田辺市、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、新宮市
地域	登録	(一社) 和歌山市観光協会	和歌山市
		(一社) 田辺市熊野ツーリズムビューロー	田辺市
		(一社) 紀の川フルーツ観光局	紀の川市
		(一社) 高野町観光協会	高野町
		(一社) 南紀白浜観光協会	白浜町
		(一社) 那智勝浦観光機構	那智勝浦町
	候補	(一社) 紀州の環	由良町

注：ここでの件数は2021年11月4日現在のもの。

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成

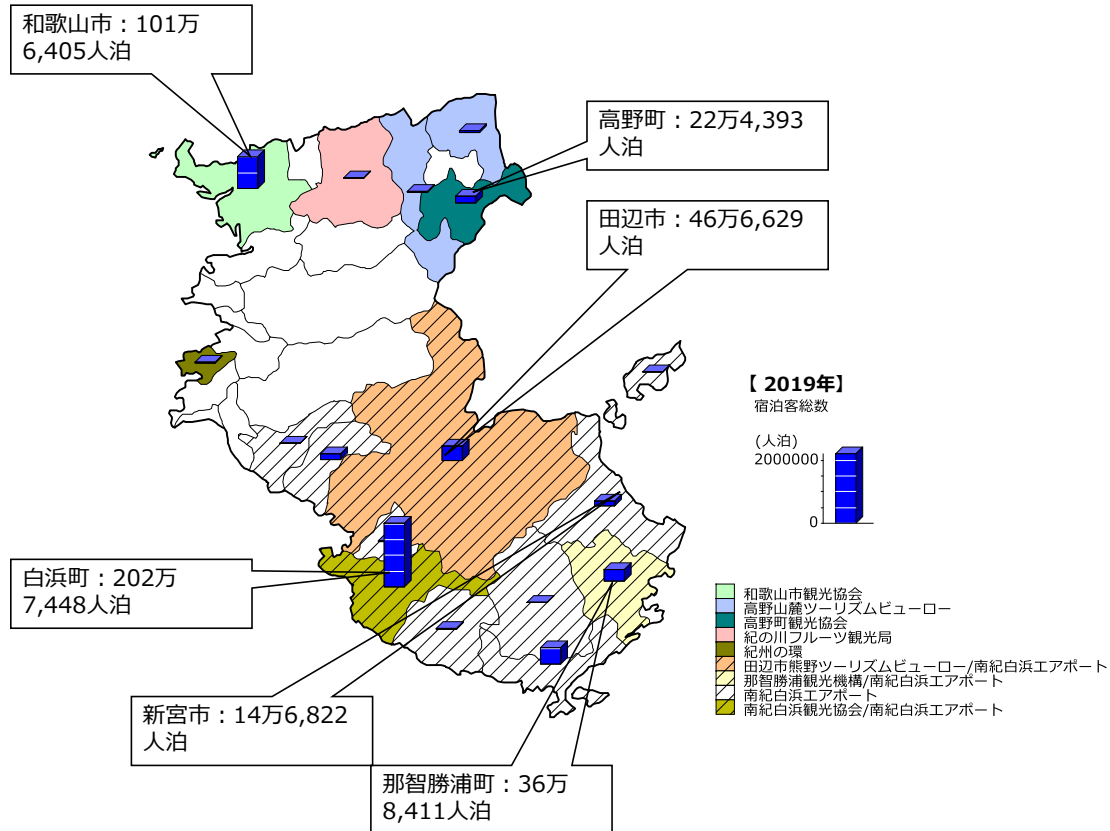
図1は表1で示した和歌山県の DMO から主要 DMO を選び、そのマネジメントエリア内の宿泊状況(2019年)をみたものである。

宿泊客総数(550万人泊)をマネジメントエリア別・降順にみれば、南紀白浜観光協会や南紀白浜エアポートの白浜町では約203万人泊、和歌山市観光協会の和歌山市では約102万人泊、TKTB や南紀白浜エアポートの田辺市では約47万人泊、那智勝浦観光機構や南紀白浜エアポートの那智勝浦

町では約 37 万人泊、高野町観光協会の高野町では約 22 万人泊、南紀白浜エアポートの新宮市では約 15 万人泊となっている<sup>6</sup>。

次項ではここから分析対象エリアを、①高野山を有するエリア(高野町)、②熊野古道を有するエリア(田辺市、那智勝浦町、新宮市)、③白浜エリア(白浜町)に3つに絞る。具体的には、高野町観光協会、TKTB、南紀白浜観光協会といった特徴のある3つのDMOを取り上げる。

図2 和歌山県における主要 DMO と宿泊状況



注：上記 DMO 以外に県全域をマネジメントする地域連携 DMO の「和歌山県観光連盟」がある。

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人一覧」より筆者作成。

### 1-3. 和歌山県主要 DMO の設立と活動状況

本項では、和歌山県の主要 DMO の設立の経緯と活動状況を時系列に沿って整理し、各エリアの特徴を確認する。その際、各 DMO の活動状況を①情報発信、②受入環境の整備、③観光資源の磨き上げといった観点から整理し、またターゲット層の特徴にも注目する。

#### 【高野町観光協会】

表 2 は世界遺産の高野山を中心に活動している高野町観光協会の活動状況を整理したものである。高野町観光協会は 2015 年 7 月に設立、20 年 1 月に地域 DMO として登録された。

<sup>6</sup> 後掲参考図表 2 にて、2019 年の和歌山県市町村別の延べ宿泊者数を示している。



これまで情報発信として地域コミュニティ FM や国際線機内でのビデオ放映などを行い、受入環境の整備では HP の多言語化やトイレの洋式化、キャッシュレス決済導入のサポートなどを行った。観光資源の磨き上げという点では、ナイトツーリズム、時間消費型観光の推進などを実施している。また、22 年夏に開業が予定されている高野山デジタルミュージアムのプロモーション活動も行っている。

表 2 高野町観光協会の設立と活動状況

高野山観光協会		高野山	高野町
	インバウンド客に対するイノベーション 情報発信 平成29年～ ・地域コミュニティFMラジオ 令和元年～2年 ・国際線機内でのPRビデオ放映 令和元年～3年 ・ホテルコンシェルジュ等へのセールス活動	2004 7月 <b>世界遺産登録</b> 案内板仕様統一・外国語併記 トイレ整備・改修	2008 世界遺産情報センター開設 (道の駅 柿の郷くどやま内)
H24 2012			
H25 2013	<b>受入環境の整備</b> HP多言語化、音声ガイド貸出、案内標識の統一化、 洋式トイレ等の整備、Wi-Fi整備、 キャッシュレス決済導入のサポート	7月 初の24時間営業のコンビニが開店	
H26 2014			
H27 2015	7月 設立 <b>観光資源の磨き上げ</b> ～令和元年 ・地域活性化事業 ・報恩高野市、心の癒しお昼夜ナイトウォーク等 令和2年～ ・時間消費型観光の推進 ・「高野山エリア活性化構想策定プロジェクト」との連携 ・高野山デジタルミュージアム開設(R4,夏予定)に向けた取り組み ・寺泊による歴史的観光資源の活用事業(観光庁)	<b>高野山開創1200年記念大法会</b>	年間総入込客数が約199万人を記録
H28 2016		10月 <b>参詣道が世界遺産に追加登録</b>	高野町団体旅行補助制度開始 →R3も継続実施中
H29 2017	8月 <b>地域DMO(候補法人)として登録</b>		
H30 2018	10月 高野町観光情報センターiKOYA開設		
R1 2019			<b>第4次高野町長期総合計画策定</b>
R2 2020	1月 <b>地域DMOとして改めて登録</b>		1月 産官学連携による共同研究が開始 高野山デジタルバス事業 10月 「KiiPass Koyasan」実証実験 (MaaSプロジェクト)
R3 2021			6月 高野町観光拠点再生計画が認定される
2035年 弘法大師入定1200年御遠忌			

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人形成・確立計画」より筆者作成

【TKTB】

表 3 は世界遺産である熊野古道の保全や誘客に取り組む TKTB の設立と活動状況を整理したものである。田辺市の合併<sup>7</sup>を契機に 2006 年に設立され、10 年には法人化、旅行業登録を行い、着地型旅行業を開始した。19 年 3 月に地域 DMO として登録され、21 年度には観光庁から重点支援 DMO として選定されている。

これまで情報発信として 2014 年に田辺市とスペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラ市が観光交流協定を締結し、その後は共同プロモーションの実施や共通巡礼などを行いインバウンド客の誘客に成功している。また、受入環境の整備では、早くからインバウンド対策を実施しており、言語表現の統一化や自社で旅行業取引を行うことで、これまでに多くのインバウンド旅行客のデータを蓄積している。観光資源の磨き上げという点では、トラベルサポートセンター「熊野トラベル」

<sup>7</sup> 田辺市は、旧田辺市、旧龍神村、旧中辺路町、旧大塔村、旧本宮町が 2005 年に合併した(表 3 参照)。

の開設や熊野古道女子部の立ち上げ、「一人旅」「女子旅」をキーワードとしたコンテンツ開発を行っている。20 年はコロナ禍で訪日外客が激減したことから、熊野古道の保全を目的に、クラウドファンディングを実施した。

表 3 TKTB の設立と活動状況

	田辺市 ～心に繋がる熊野古道～ 熊野ツーリズムビューロー Tenabe City Kumano Tourism Bureau	熊野古道	田辺市				
			田辺	能神	中辺路	大塔	本宮
	2006 設立 2010 法人化 着地型旅行業開始  インバウンド客に対する イノベーション  情報発信 08 年 海外メディア向けプレスツ アー 15 年 「第22 回アメリカン・トレ イルズ」に出席 受入環境の整備 07 年 外国人旅行者対応開始 08 年 英語音声ガイド、市内飲食店 向けに多言語メニュー作成 2017 年 「熊野トラベル」を新設 観光資源の磨き上げ 10 年～ 着地型旅行業の開始	2004 世界遺産登録 案内板仕様統一・外 国語併記、 トイレ整備・改修 2011 ミシュランガ イドで三ツ星獲得	2005 田辺市誕生 2006 「田辺市観光アクショ ンプラン」策定 2008 スペイン・サンティア ゴ・デ・コンポステーラ市と 共同プロモーション協定締結			2004 自家用車 搬送サービス事 業開始 2010「熊野古道 館」リニューア ル	2009「世界遺 産熊野本宮 館」開業 2011 温泉療法 を取り入れた 誘客事業
H24 2012				田辺市文化交 流センター 「たなべる」 開業			
H25 2013			ゴールデンイヤー誘客事業 (2013～15) 伊勢神宮式年遷宮 「田辺市観光アクションプラン」策定 高野・熊野アクセスバス運行	田辺市観光セ ンター開業	美人の湯を活 用した誘客事 業	熊野古道手荷物 搬送サービス企 業支援 観光交流施設 「かめや」開業	トレッキング を活用した誘 客事業
H26 2014		世界遺産登録10周年	スペイン・サンティアゴ・ デ・コンポステーラ市観光交 流協定締結 和歌山DC 「田辺市熊野古道語り部ジュ ニア」開始		サイクリスト を対象とした 誘客事業 高野山と連携 した誘客事業		「外国人おも てなし委員 会」設置
H27 2015		公衆無線LAN整備開 始	高野山開創1200年記念大法 会 共通巡礼手帳開始		「高野龍神観 光連携協議 会」設置	第1回中辺路 フォトコンテス ト開催	
H28 2016	2月 地域DMO(候補法人) として登録	世界遺産追加登録				第2回中辺路 フォトコンテス ト開催	
H29 2017	トラベルサポートセンター 「熊野トラベル」開設 熊野古道女子部の立ち上げ						
H30 2018							
R1 2019	3月 地域DMOとして改め て登録	ガイジンボット 「2020年外国人が訪 れるべき日本の観光 地ランキング」第1位					
R2 2020	「一人旅」「女子旅」をキ ーワードとしたコンテンツ開発 熊野古道保全のため、クラウド ファンディングの実施						


出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人形成・確立計画」より筆者作成

【南紀白浜観光協会】

表 4 は南紀白浜観光協会の設立と活動状況を整理したものである。2016 年 5 月に DMO 白浜(仮称)設立準備協議会が発足し、7 月に地域 DMO(候補法人)として登録された。18 年 4 月に(一社)南紀白浜観光局が設立され、19 年 3 月に地域 DMO に登録された。また 21 年 4 月に白浜観光協会との組織統合により(一社)南紀白浜観光協会が誕生した。

情報発信として、首都圏を中心としたプロモーションに取組み、2017 年には田辺市との共同プロモーションや関西圏を中心とした合宿誘致事業を展開している。受入環境の整備という点では、20 年に第 3 種旅行業を取得しており、自社での旅行商品の開発、販売を行っている。観光資源の磨き上げの点では、18 年からインスタグラムによる写真投稿を促すフォトラリーを開催している。

表 4 南紀白浜観光協会の設立と活動状況

		白浜町
H24 2012		
H25 2013		
H26 2014		
H27 2015		
H28 2016	5月 DMO白浜設立準備協議会の発足 7月 地域DMO(候補法人)として登録 ( (一社)DMO白浜<仮称> )	2月 白浜町人口ビジョン 同 白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略 3月 白浜温泉街活性化構想推進計画
H29 2017		
H30 2018	4月 (一社)南紀白浜観光局 設立	3月 白良浜周辺等海洋活用計画 4月 第2次白浜町長期総合計画
R1 2019	3月 地域DMOとして改めて登録	
R2 2020	旅行業の登録 (3種)	
R3 2021	4月 (一社)南紀白浜観光局と白浜観光協会が組織統合により 「(一社)南紀白浜観光協会」が誕生	3月 第2次白浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人形成・確立計画」より筆者作成

【各 DMO のターゲット層】

それぞれの DMO では誘客ターゲット層を設定しており、それを整理したものが表 5 である。高野町観光協会では自主調査に基づき、国内観光客のうち特に若い世代をターゲットにしている。また、インバウンドではこれまで約 8 割が欧米地域であったが、今後の旅行形態が大きく変わることを見据え、新たな価値と需要を創造することとしている。

TKTB では、これまでの実績から引き続き欧米豪をターゲットとするが、コロナ禍を受け国内観光客も重視している。特にアクセスの良さから首都圏及び関西圏に注目し、また首都圏の 20~40 代の女性に絞るなど、世代別に旅行商品を造成、プロモーションしている。

南紀白浜観光協会では、国内は首都圏を中心に知名度向上を図り、インバウンドはこれまでの実績から東アジア地域をターゲットとしている。



表 5 各 DMO のターゲット層

 高野山 高野町観光協会	 田辺市 ～心に触れる熊野古道～ 熊野ツーリズムビューロー Tanabe City Kumano Tourism Bureau	 NANKI-SHIRAHAMA 南紀白浜観光協会
<p style="text-align: center;">ターゲット層</p>		
<p><b>国内観光客</b> (首都圏・関西圏を中心とする若年層およびシニア層)</p> <p>令和2年度に実施した自主調査において、少なかった年代層に焦点を当て、旅行商品の造成などに取り組む。</p>	<p><b>欧米豪の個人旅行者</b></p> <p>これまでの実績に加え、熊野エリアの特性が「神仏習合」「自然崇拜」であり、これらが欧米豪の旅慣れた人々の知的好奇心を刺激するという考えがベースのもと、「インバウンド＝欧米豪」とターゲットを絞っている。</p>	<p><b>首都圏からの誘客</b></p> <p>「南紀白浜」の知名度が低い首都圏をターゲットとしたプロモーションを実施。「温泉」「パンダ」「白砂のビーチ」等観光資源の知名度を向上させる。</p>
<p><b>インバウンドの回復に向けて</b></p> <p>これまで約8割を欧米が占めていたが、コロナ後の旅行形態が大きく変わることを見据えて、新たな価値と需要を創造する。 引き続き個人旅行者が安心して観光できるインフラ整備や環境づくりに取り組む。</p>	<p><b>首都圏及び関西圏の国内観光客</b></p> <p>関西圏は近距離にあり、首都圏においても飛行機を用いれば1時間で移動することができる。 「熊野」という地域に「聖地」としての魅力を感じている方が多いことから、地域ならではのコンテンツをブラッシュアップし、地域産業と組み合わせ新たな体験プランの造成を進める。</p>	<p><b>インバウンド客(東アジア地域他)</b></p> <p>コロナ禍での海外プロモーションについて検証を行う。JNTOや県からの情報を収集する。</p>
<p><b>研修や合宿の誘致</b></p> <p>エリア内に多くの宿泊施設(宿坊)を持つことを強みに、高野山ならではの宗教性や精神性に触れる体験等、付加価値の高いコンテンツを提案する。</p>	<p><b>首都圏を中心とする20～40代女性</b></p> <p>首都圏で特に女性は「熊野」エリアにスピリチュアルな魅力を感じている方が多く、ターゲットを絞った。 「熊野古道女子部」を立ち上げ、女子目線の熊野古道の魅力を発信し、国内観光客の増加につなげる。</p>	<p><b>MICE観光 スポーツ合宿誘致</b></p> <p>新たな誘客コンテンツを検討し、大学や旅行エージェントに対し営業活動を行う。MICEについては誘致の可能性の具体的な検討を行う。</p>

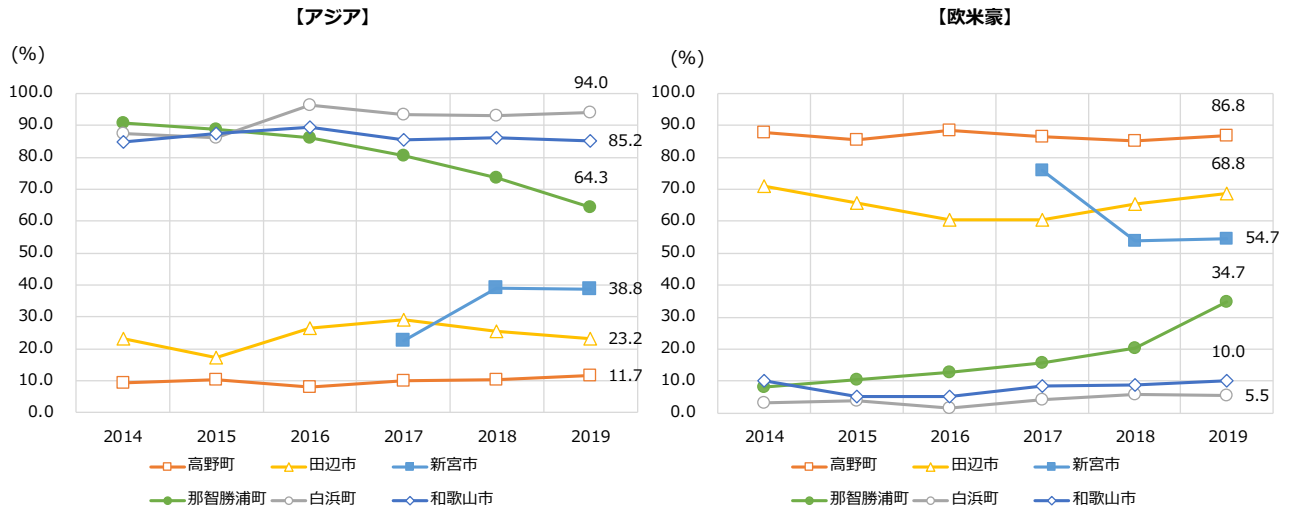
出所：観光庁 HP「観光地域づくり法人形成・確立計画」より筆者作成

【市町村別の外国人シェア】

本節では各主要 DMO に注目し、その設立と活動状況を整理した。次節では主要 DMO の誘客分析を展開するが、本節の最後において、和歌山県の外国人宿泊者数の特徴を市町村別・国籍別に整理しておこう。

図 3 は 2014 年から 19 年の DMO エリア内の外国人宿泊者数の国・地域別シェアをみたものである。例えば、19 年のアジアからの外客をみれば、白浜町(94.0%)が最も高く、また和歌山市(85.2%)、那智勝浦町(64.3%)も高いのが特徴的である。一方、田辺市(23.2%)や高野町(11.7%)では低い。欧米豪からの外客をみれば、高野町(86.8%)や田辺市(68.8%)のシェアが高いのに比して、和歌山市(10.0%)や白浜町(5.5%)は低い。また新宮市や那智勝浦町に注目すれば、熊野古道エリアであるため欧米豪(新宮市：54.7%、那智勝浦町：34.7%)のシェアが高いことに加え、白浜町と近接していることからアジア(新宮市：38.8%、那智勝浦町：64.3%)が高いことも特徴的である。このように各 DMO が取り組んでいる施策の影響もあり、各市町村によってシェアに違いがあらわれていると考えられる。

図3 市町村別 国・地域別外国人宿泊者シェアの推移



出所：和歌山県『和歌山県の外国人宿泊客数』より筆者作成。

## 2. 和歌山県主要 DMO のエリア別特徴と誘客効果分析

### 2-1. 使用する基礎統計

本節では前節で取り上げた主要 DMO について、和歌山県『観光客動態調査報告書』に加え観光庁『宿泊旅行統計調査』の個票データ<sup>8</sup>という 2 つの基礎統計を用いて分析を行う。前者のデータからは、国内旅行者数や外国人宿泊者数のみならず、各市町村における宿泊施設数、宿泊施設のタイプや宿泊客の収容力といったなどが把握可能である。後者のデータでは、前者で把握できないより詳細な国籍別の外国人宿泊者の情報が利用できる。2 つの統計を合わせて利用することで新たな特徴が見えてくる。

### 2-2. 『観光客動態調査報告書』からみた主要 DMO のエリア別特徴

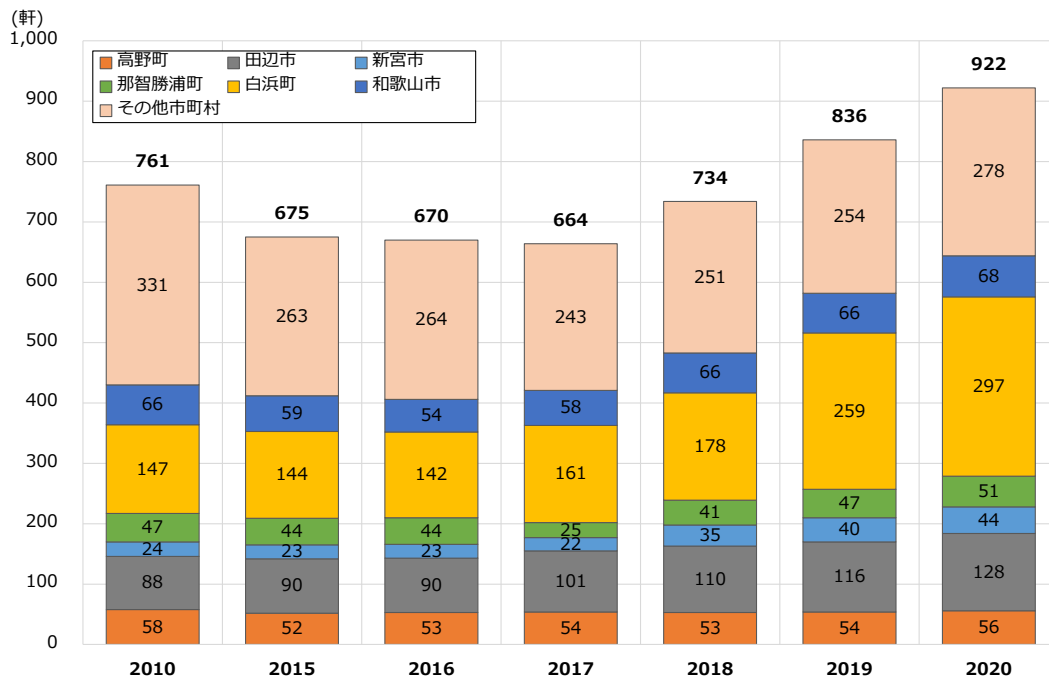
#### 【宿泊施設数】

本項では『観光客動態調査報告書』を用いて、和歌山県全体の宿泊施設数や各主要 DMO がマネジメントエリアとしている市町村の宿泊施設をタイプ別にみることで各エリアの特徴を明らかにする。また、各エリアの宿泊収容人数も確認する。

図 4 は和歌山県の主な宿泊施設数の推移を市町村別にみたものである。図が示すように、県全体の施設数は 2010 年の 761 軒から 17 年には 664 軒へと減少した後、18 年以降増加傾向を示し、20 年には 922 軒となっている。

<sup>8</sup> 本分析は国土交通省近畿運輸局との共同研究の一成果である。なお、本分析で示された見解は執筆者たちに帰属する。

図4 県内宿泊施設数の推移



注：数値はホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、宿坊、寮/保養所・貸別荘、民泊の施設合算したもので、その他施設(国民宿舎、国民休暇村、ユースホステル、青少年旅行村、青年の家/少年自然の家、年金保養センター、キャンプ場、その他)を除いていることに注意。

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

次に図5ではDMOのマネジメントエリアとなる市町村に所在している宿泊施設をタイプ別に分けて推移をみたものである。各市町村の特徴は以下の通りである<sup>9</sup>。

#### <高野町>

宿泊施設数は2010年の58軒から20年は56軒と微減しているものの、ほぼ横ばいで推移している。

また宿泊施設のタイプをみれば、宿坊のシェアが2010年：87.9%から20年：92.9%と圧倒的であり、ホテルや旅館などの宿泊施設はほとんど見られない。

#### <田辺市>

宿泊施設数は2010年の88軒から増加傾向を示し、20年には128軒と1.5倍増加している。

宿泊施設のタイプをみれば、民宿が最も多い(10年：42軒→20年：55軒)。次いで、旅館が多いが、10年の30軒から20年には24軒と幾分減少している。一方、ゲストハウスが17年の9軒から20年には23軒と約2.6倍増加している

<sup>9</sup> 各市町村の詳細な数値については後掲参考図表3を参照。

<新宮市>

宿泊施設数は2010年の24軒から20年には44軒と1.8倍増加している。

宿泊施設のタイプをみれば、ホテル、旅館、民宿がほぼ同水準で推移している一方で、近年は民泊が増加しており(18年：13軒→20年27軒)、20年には市全体に占めるシェアが61.4%まで上昇している。

<那智勝浦町>

宿泊施設数は2010年の47軒から20年には51軒と微増している。

宿泊施設のタイプをみれば、民宿が2010年の25軒から20年には11軒まで減少している一方で、18年以降ゲストハウスが増加しており(18年：12軒→20年22軒)、20年には町全体に占めるシェアが43.1%まで上昇している。

<白浜町>

宿泊施設数は2010年の147軒から着実に増加しており、特に18年(178軒)から20年(297軒)にかけて急増している。

宿泊施設のタイプをみれば、総じて民宿が多いものの、近年では民泊が急増しており(18年：14軒→19年：96軒→20年：141軒)、町全体の施設数を押し上げている。また、国内有数の観光地ということもあり、保養所、貸別荘などが他エリアに比して多いことが特徴である。

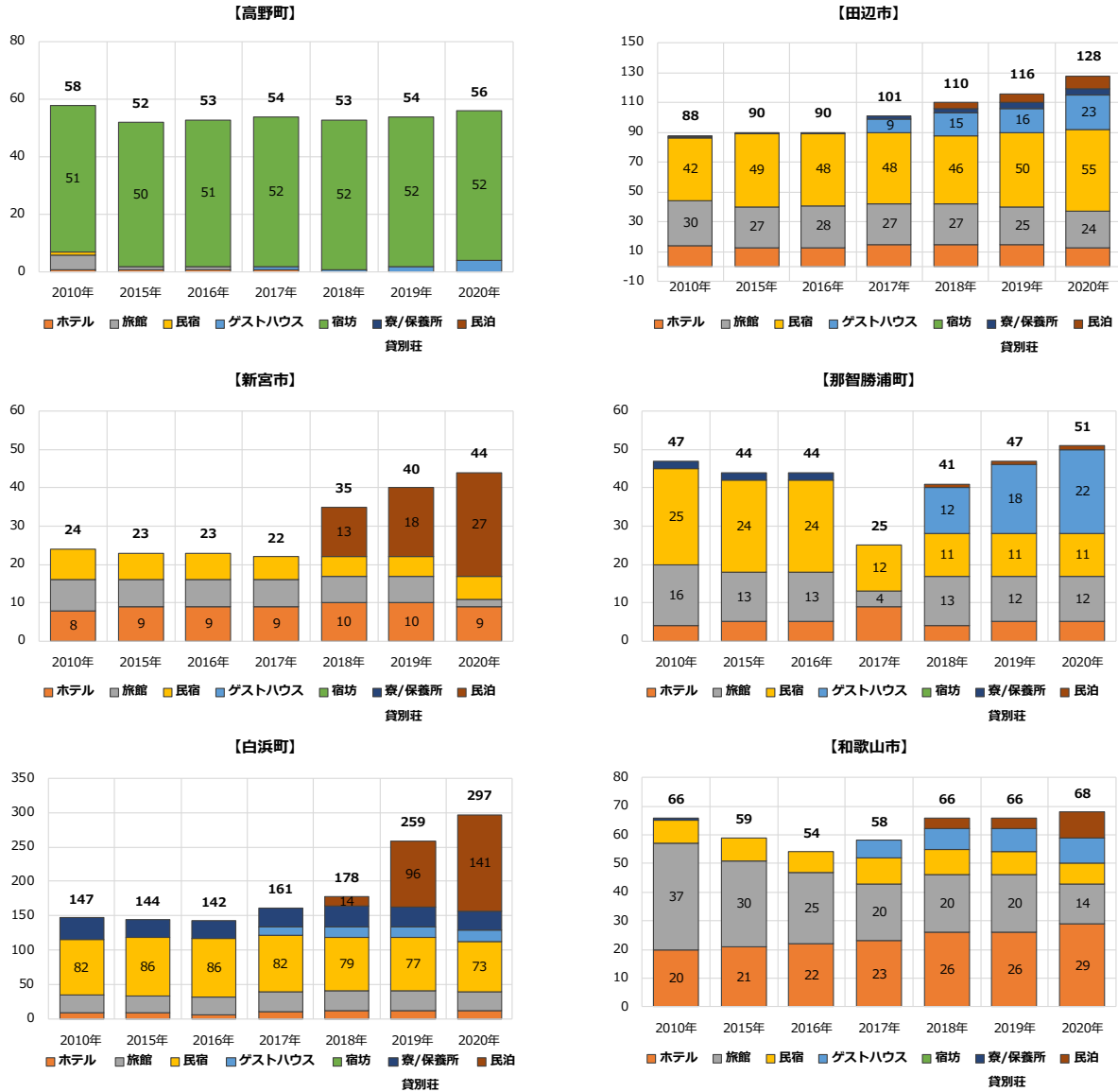
<和歌山市>

宿泊施設は2010年の66軒から20年には68軒とほぼ横ばいで推移している。

宿泊施設のタイプをみれば、旅館が2010年の37軒から20年に14軒まで減少している一方でホテル(10年：20軒→20年29軒)が幾分増加している。また、ゲストハウス(17年：6軒→20年9軒)や民泊(18年：4軒→20年：9軒)も増加している。

最後に各市町村の宿泊施設の県内シェアを整理しておく。白浜町(2010年：19.3%→20年：32.2%)、田辺市(10年：11.6%→20年：13.9%)、新宮市(10年：3.2%→20年：4.8%)はいずれも上昇しており、2市町で県全体の46.1%を占めている。一方、その他市町村(10年：43.5%→20年：30.2%)、和歌山市(10年：8.7%→20年：7.4%)、高野町(10年：7.6%→20年：6.1%)、那智勝浦町(10年：6.2%→20年：5.5%)はいずれも低下している。

図5 市町村別宿泊施設数の推移



注：単位：軒。数値はホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、宿坊、寮/保養所・貸別荘、民泊の施設合算したもので、その他施設を除いていることに注意。  
出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

【宿泊施設収容力】

図6は上述した宿泊施設の収容力を市町村別に示したものである。まず全体の特徴を述べたのち、各市町の特徴をみてみよう<sup>10</sup>。

<全体の特徴>

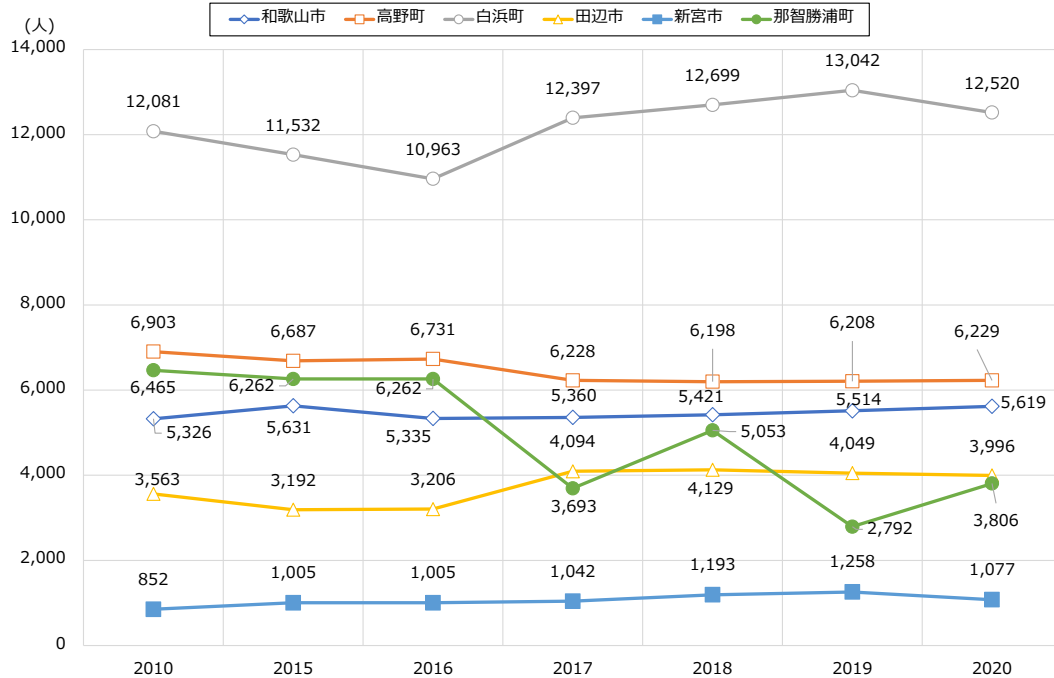
2010年から20年間の推移をみれば、白浜町(10年：12,081人→20年：12,520人)、和歌山市(10年：5,326人→20年：5,619人)、田辺市(10年：3,563人→20年：3,996人)や新宮市(10

<sup>10</sup> 市町村の詳細な数値については後掲参考図表4を参照。



年：852人→20年：1,077人)はいずれも増加している。一方で、高野町(10年：6,903人→20年：6,229人)や那智勝浦町(10年：6,465人→20年：3,806人)は減少していることがわかる。

図6 市町村別宿泊施設収容力の推移



注：数値はホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、宿坊、寮/保養所・貸別荘、民泊の施設合算したものでその他施設を除いていることに注意。

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

#### <高野町>

施設の収容力をみれば、2010年の6,903人から減少傾向となり18年には6,198人まで減少している。19年には6,208人へと増加に転じ、20年には6,229人となったが、10年の水準を下回っている。減少要因としては、宿坊の収容力の減少が大きく、10年の6,779人から17年に6,185人へ減少して以降、横ばいで推移している(後掲参考図表4参照)。

#### <田辺市>

施設の収容力をみれば、2010年の3,563人から15年には3,192人へ減少したものの、16年以降は増加傾向で推移している。増加要因としては、ホテルの増加が大きく、10年の602人から20年には1,188人と約2倍増加している。また、近年ではゲストハウスも増えており、17年の109人から20年は221人へと着実に増加している(後掲参考図表4参照)。

#### <新宮市>

施設の収容力をみれば、2010年の852人から増加傾向で推移し、20年には1,077人まで増加している。増加要因としては、ホテルと民泊の増加が大きく影響しており、特に民泊は18年の90人から足下20年には198人まで増加している(後掲参考図表4参照)。

#### <那智勝浦町>

施設の収容力をみれば、2010年の6,465人から減少傾向となり、20年には3,806人となっている。減少要因としては、旅館の減少が大きく、10年の5,763人から20年には3,108人まで減少している(後掲参考図表4参照)<sup>11</sup>。

#### <白浜町>

施設の収容力をみれば、2010年の12,081人から16年の10,963人へ減少した後、17年以降再び増加傾向を示し、足下の20年は12,520人となっている。うち、ホテルの収容力が10年の1,475人から20年には2,436人まで増加し、民泊も18年の219人から20年は1,105人まで増加している(後掲参考図表4参照)。

#### <和歌山市>

施設の収容力をみれば、2010年の5,326人から増加傾向で推移し、足下20年は5,619人まで増加している。うち、ホテルの収容力が10年の2,455人から20年に3,971人まで増加している(後掲参考図表4参照)。

## 2-3. 『宿泊旅行統計調査』個票データからみた主要DMOのエリア別特徴

### 【宿泊者数、外国人宿泊者比率】

ここでは和歌山県内における宿泊者数の推移(2012~19年)を、宿泊者属性別及び地域別にみていく(図7及び参考図表5)。

全宿泊者数は2012年の2,657千人泊から14年の2,502千人泊に減少するも、好調なインバウンドの影響もあり反転に転じ、以降着実に増加し、19年には2,959千人泊となっている。

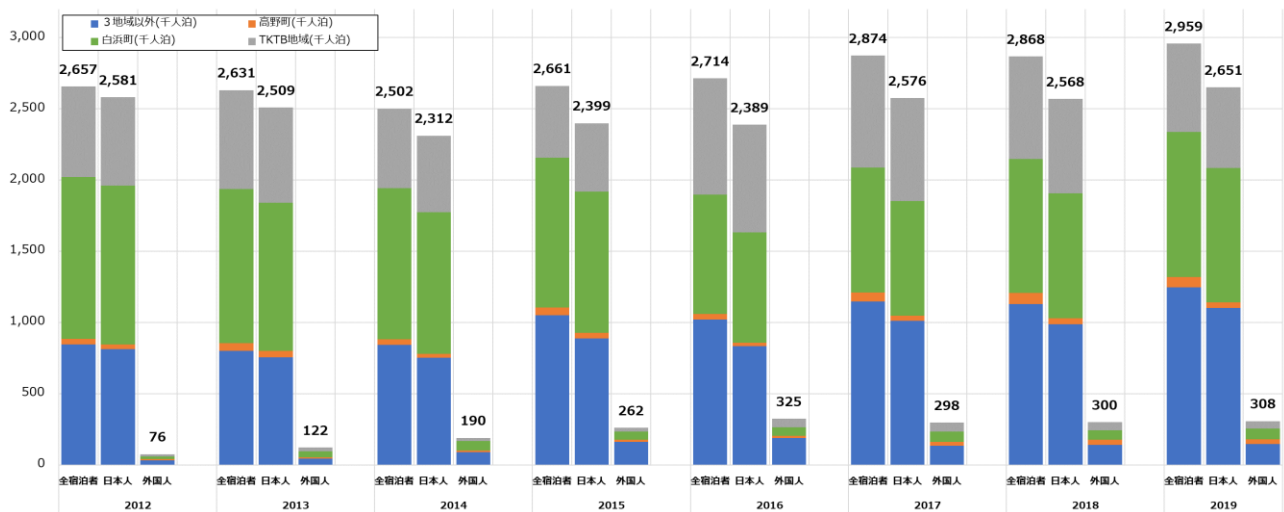
うち、日本人宿泊者数についても同様の傾向となっているが、2013~14年は2年連続で減少している。14年の消費増税の影響が大きい。15年以降は、増減を繰り返し、均してみれば微増にとどまる。

<sup>11</sup> 和歌山県(2017)によれば、旅館の収容力減少の要因として、大型宿泊施設がリニューアル工事で休館したことが挙げられている。

一方、外国人宿泊者数は急速に伸び、2016年に325千人泊とピークを迎える。以降、伸びは減速するものの、高水準を維持している。結果、12年と比較して19年は約4倍に拡大している(後掲参考図表5参照)。

2019年の宿泊者数を地域別にみると、白浜町(全宿泊者：101万7千人泊：日本人：94万3千人泊、外国人：7万4千人泊)が最も多く、次いでTKTB地域<sup>12</sup>(全宿泊者：62万1千人泊：日本人：56万8千人泊、外国人：5万3千人泊)、高野町(全宿泊者：7万4千人泊：日本人：3万9千人泊、外国人：3万5千人泊)の順となる。

図7 和歌山県内各地域における属性別宿泊者数の推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

次に属性別宿泊者のシェアを地域別にみてよう(図8及び参考図表5)。

全宿泊者については、白浜町のシェアは高水準ながら縮小傾向にある(2012年：42.8%→19年34.4%)。TKTB地域では2012年(23.9%)から16年(30.1%)にシェアは拡大するも、足下19年(21.0%)は12年と同水準となっている。一方、高野町はこの間、約1~3%程度のシェアを維持している。

日本人宿泊者については、全宿泊者と同様に白浜町のシェアは低下するが(12年：43.3%→19年：35.6%)、依然高水準を維持している。TKTB地域のシェアは16年(31.6%)に拡大するが、足下19年(21.4%)は縮小している。一方、高野町はこの間、約1.5%程度のシェアを維持している。

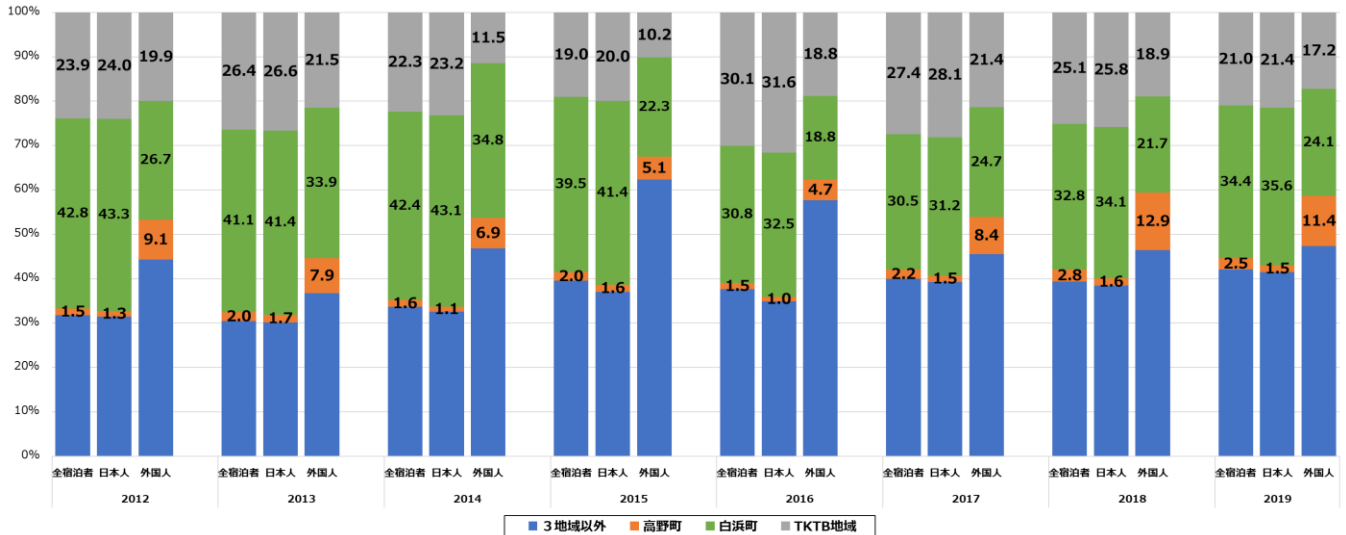
外国人宿泊者については、白浜町のシェアは2014年にピークを迎え(34.8%)、以降は約20%程度を維持している。TKTB地域のシェアは、14年、15年に10%台に低下するも(14年：11.5%、15年：10.2%)、以降おおむね20%台を維持している。高野町のシェアは、16年にか

<sup>12</sup> ここでのTKTB地域とは、田辺市に加え、新宮市、那智勝浦町の地域から成る。熊野古道ルートに関連する地域を含んでいることに注意。

けて 9%程度から 5%程度まで低下したが、以降 10%程度まで回復している(12 年：9.1%→16 年：4%→19 年：11.4%)。

なお、県全体に占める 3 地域のシェア(2019 年)は、全宿泊者及び日本人宿泊者では約 60%、外国人宿泊者では約 50%となっている。

図 8 各地域における属性別宿泊者シェアの推移(%)



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

図 8 では地域別のシェアをみたが、図 9 では各地域における全宿泊者数及び日本人宿泊者数を棒グラフで示し、全宿泊者に占める外国人宿泊者比率を折れ線グラフであらわしている。

#### <高野町>

全宿泊者数は 2014 年、16 年に一旦落ち込むが、以降増加傾向となっている。一方、日本人宿泊者数はおおむね同水準での推移となっている。外国人宿泊者の比率は右肩上がりとなっていることから、高野町では外国人宿泊者数の増加が、全宿泊者数の増加につながっていることがわかる。なお、高野町の外国人宿泊者の比率は、足下の 19 年では約 5 割に近づいており、全宿泊者の半数が外国人となっている特徴的な地域である。

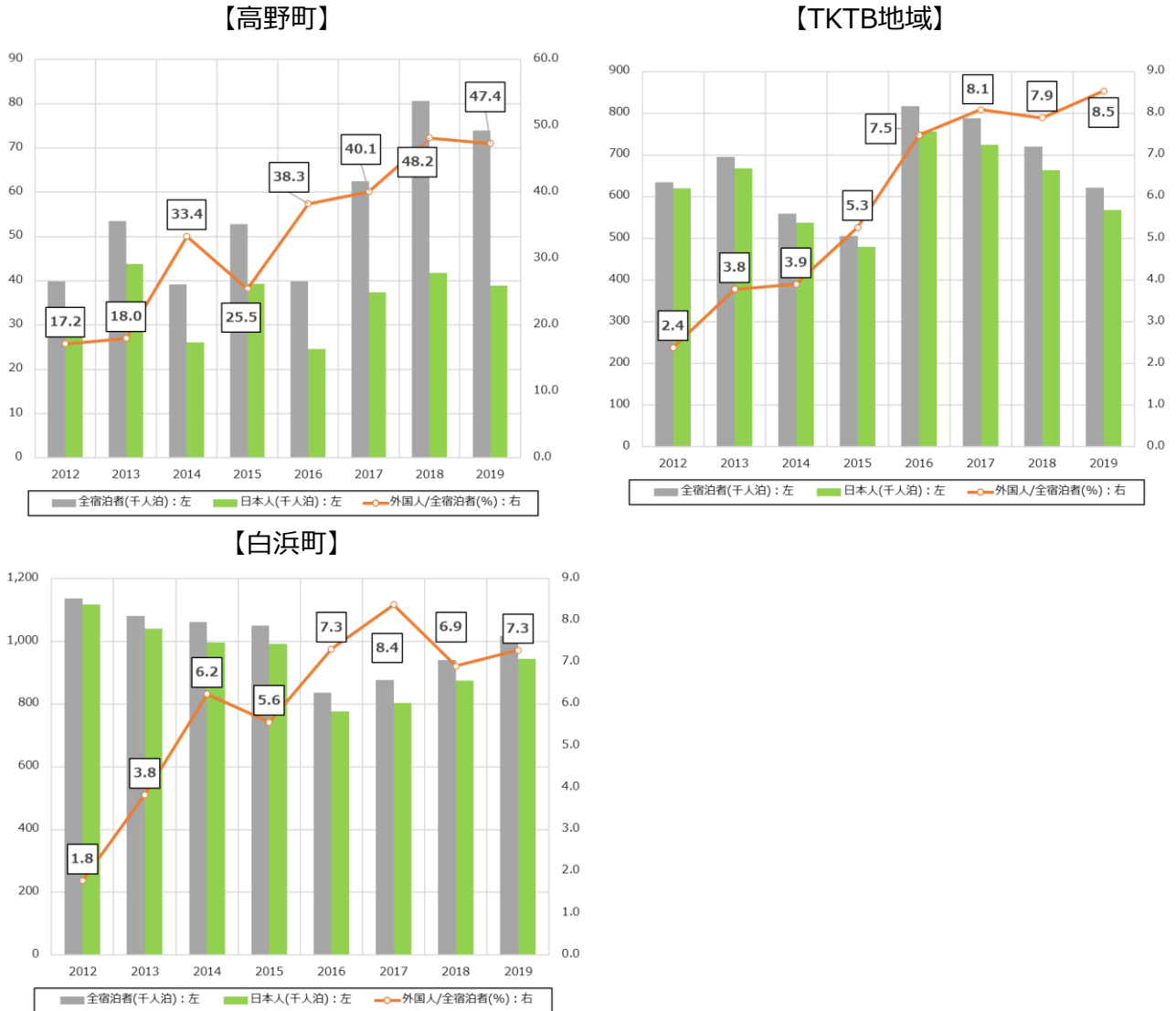
#### <TKTB 地域>

全宿泊者数は 2016 年をピークに減少傾向を示しており、日本人宿泊者数も同様の推移がみられる。一方、外国人宿泊者の比率は上昇傾向(12 年：2.4%→19 年：8.5%)を示していることから、外国人宿泊者数が増加していることがわかる。

<白浜町>

全宿泊者数は2012年減少傾向で推移したが、2016年に底打ちとなり、以降は増加傾向を示している。また、日本人宿泊者数も同様の傾向がみられる。一方、外国人宿泊者の比率は17年にかけて上昇傾向を示し、以降7~8%で推移している。

図9 各地域における宿泊者数と外国人宿泊者比率の推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

【国籍別外国人宿泊者】

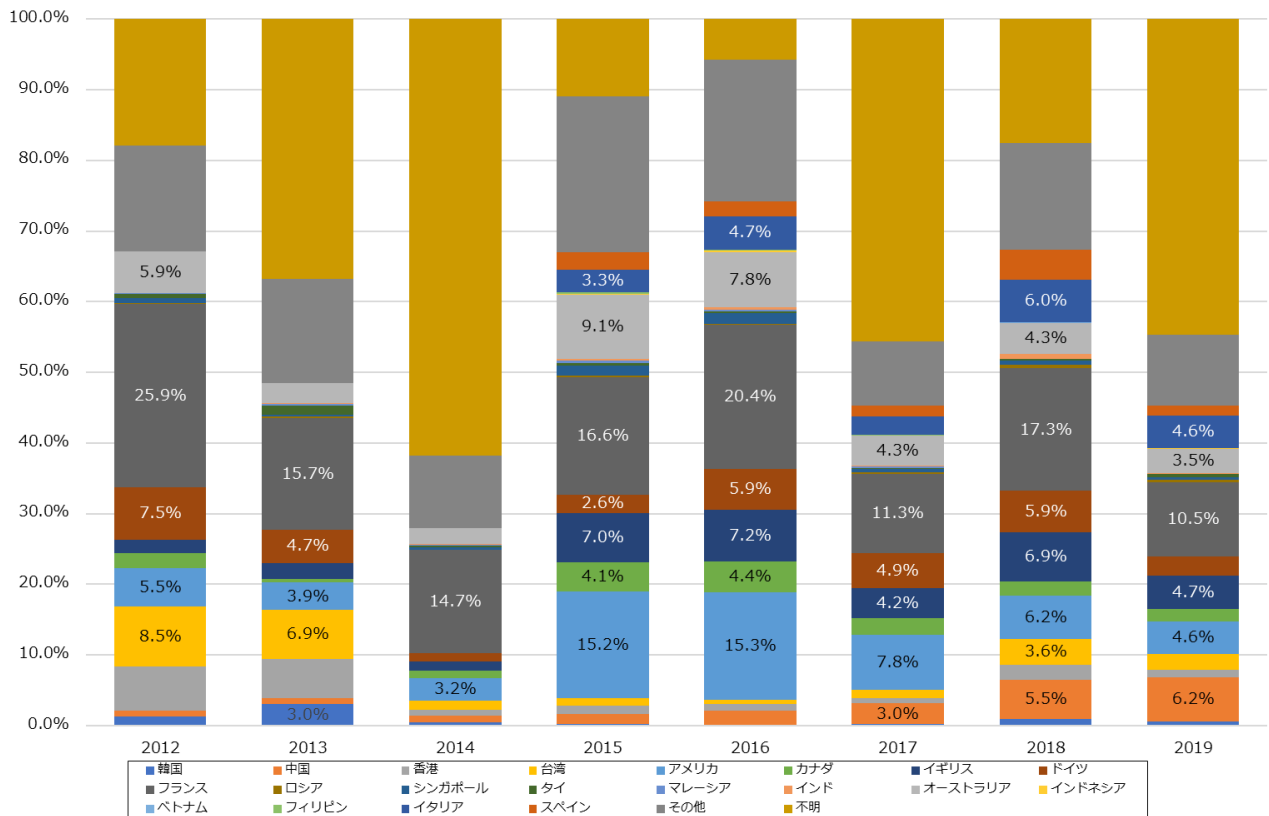
図9では、全宿泊者数と日本人宿泊者数を、また全宿泊者に占める外国人宿泊者比率の推移を地域別にみたが、ここでは外国人宿泊者に限定し、その国籍別の特徴をみる(図10~図13)。



<高野町>

図 10 をみると、2012～19 年を通じて、欧米豪<sup>13</sup>のシェアが高く(12 年：48.7%→19 年：33.9%)、中でもフランスが 1～2 割程度を占めている(12 年：25.9%→19 年：10.5%)。アジア地域のシェアをみると、高野町では 1 割程度で(12 年：18.2%→19 年：11.1%)、県内でも特徴のある地域となっている。なお、「国籍不明」のシェアが他地域と比べて高い年も多いため、動向に注意を要する<sup>14</sup>。

図 10 高野町における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

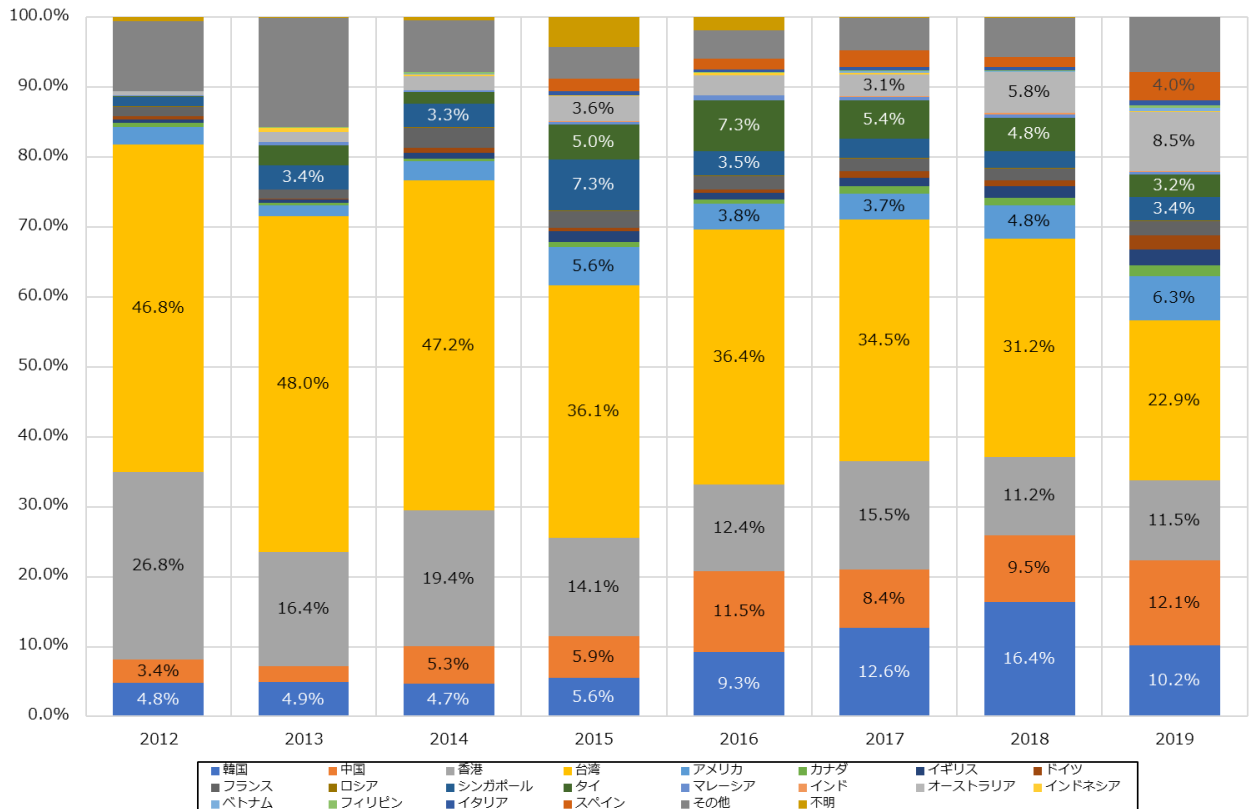
<sup>13</sup> ここでの欧米豪は、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、アメリカ、カナダ、オーストラリアを指す。

<sup>14</sup> なお、後掲図 11～13 が示すように、国籍不明のシェアは、おおむね 10～20%程度に収まっている。

<TKTB 地域>

図 11 をみると、この間、東アジア地域<sup>15</sup>のシェアが高い(2012 年 : 81.8%→19 年 : 56.6%)。なかでも台湾のシェアが最も高く、13 年には単独で約 5 割を占める(48.0%)。15 年以降は欧米豪(12 年 : 5.9%→19 年 : 27.5%)や東南アジア地域(12 年 : 1.5%→19 年 7.8%)<sup>16</sup>のシェアも上昇している。うち、スペインのシェアが 19 年には 4%程度拡大しており、この背景には表 3 でみたように、14 年のスペイン・サンティアゴ・デ・コンポステーラ市との観光交流協定締結の影響が考えられる。

図 11 TKTB 地域における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

<熊野古道ルートに限定した TKTB 地域<sup>17</sup>>

図 11 では田辺市、新宮市、那智勝浦町の 3 市町全域の国籍別シェアをみたが、図 12 では「熊野古道」ルートの宿泊施設を対象に絞り、その特徴をみる。

東アジア地域をみれば、TKTB 地域では大きなシェア(2012 年 : 81.8%→19 年 : 56.6%)を示していたが、熊野古道ルートに限定した図 12 では 3~4 割程度にまで縮小している(12 年 : 41.7%→19 年 : 30.9%)。

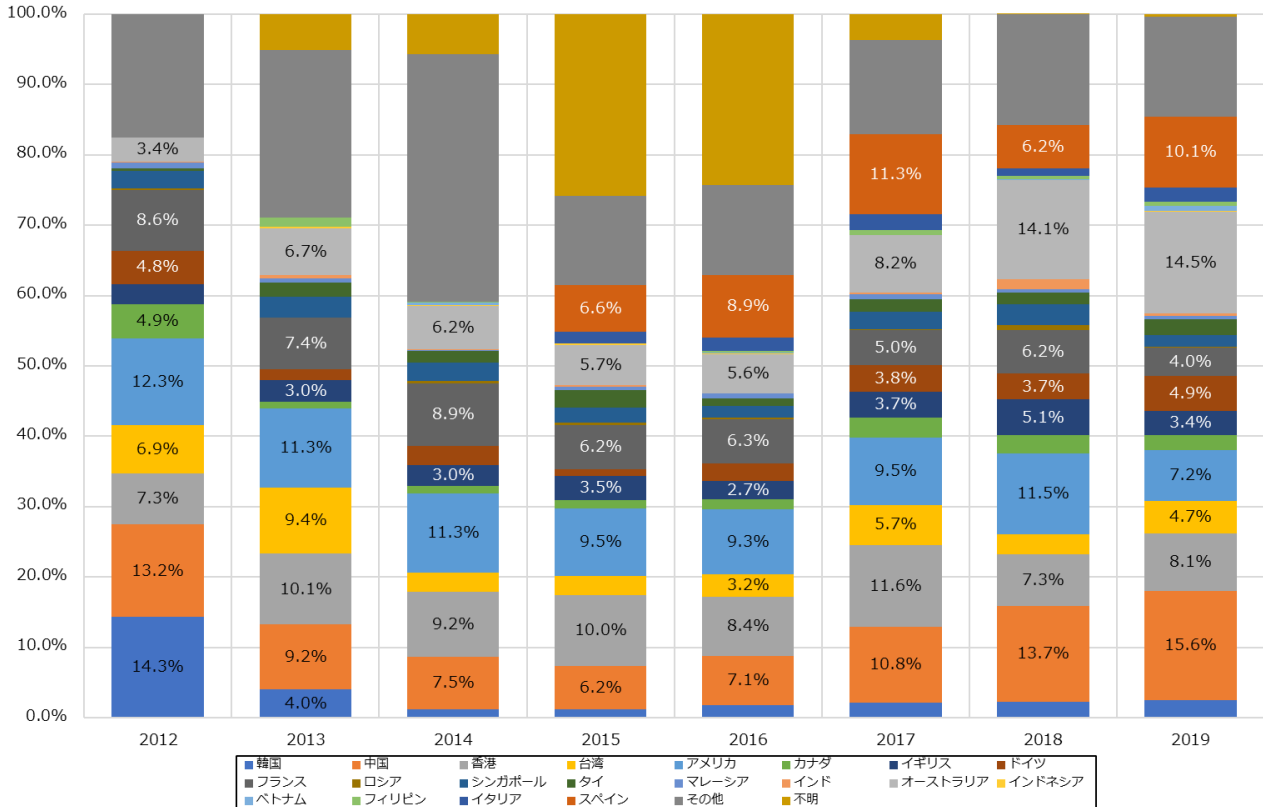
<sup>15</sup> ここでの東アジア地域は、韓国、中国、台湾、香港を指す。

<sup>16</sup> ここでの東南アジア地域はシンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、フィリピンを指す。

<sup>17</sup> 熊野古道ルート及び関連施設の郵便番号をもとに『宿泊旅行統計調査』の個票データから得られる当該宿泊施設を TKTB 地域から抜き出した。

一方、欧米豪のシェアをみれば、TKTB 地域ではシェア(2012 年 : 5.9%→19 年 : 27.5%)が小さかったのが、熊野古道ルートに限定すればシェアは大幅上昇している(12 年 : 36.9%→19 年 : 48.3%)。とりわけオーストラリア(12 年 : 3.4%→19 年 : 14.5%)、スペイン(15 年 : 6.5%→19 年 : 10.1%)などが比較的高いシェアを占めており、表 5 で示した通り TKTB がターゲット層としている欧米豪が着実に増加していることがわかる。

図 12 TKTB 地域における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



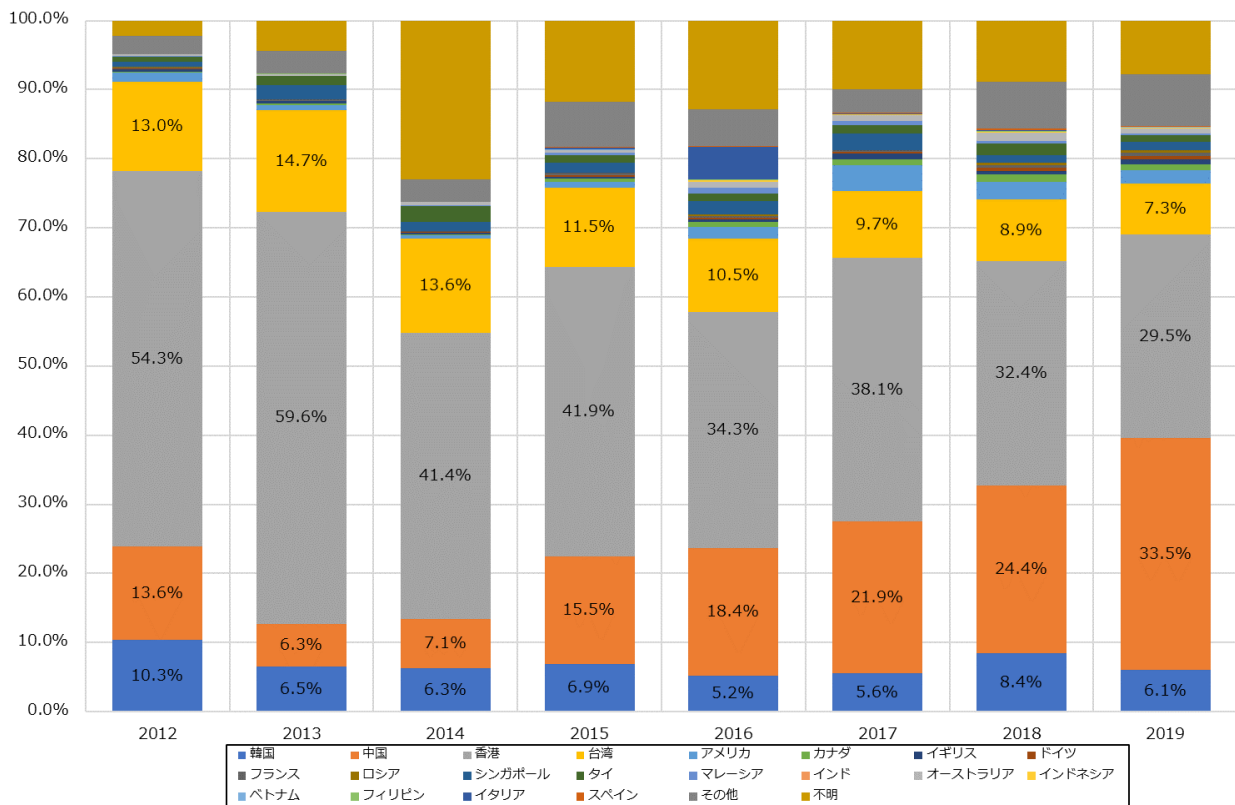
出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

<白浜町>

図 13 をみると、白浜町では東アジア地域が 7 割を超えるシェアとなっており(2012 年 : 91.2%→19 年 : 76.4%)、空港及び海路からのアクセスも便利なことから、アジア地域から人気の旅行先であることがわかる。中でも中国のシェアが年々拡大しており、足下の 19 年では 33.5%と、東アジア地域の中で最も高い。

一方、欧米豪のシェアは、12 年が 2.3%であったのに対し 19 年は 5.3%と拡大しているものの、高野町や TKTB 地と比較すると低い。

図 13 白浜町における外国人宿泊者の国籍別シェアの推移



出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

### 3. 分析の整理と含意

前節では和歌山県の主要 DMO の活動状況を整理し、各 DMO の誘客効果について基礎統計を用いて分析を行った。これまでみたように和歌山県は世界遺産の自然、歴史文化や県内の食文化を観光資源として上手く活用しプロモーションを行うことで、インバウンド誘客に取り組んでき。結果、訪日外客は着実に増加してきた。分析結果を整理し、得られた含意は以下のようにまとめられる。

1. 2012～20 年において、延べ宿泊客総数の伸びが減少したのは、16 年(-7.7%)、17 年(-1.5%)、そして 20 年(-41.0%)の 3 年であるが、16 年は日帰り客数が増加した結果、県全体の観光入込客数では減少は 2 年にとどまり、着実に増加していることがわかる。宿泊客のうち、訪日外客は一貫して全体の押し上げに寄与している。
2. 県全体の宿泊施設数をみれば、2010 年から 17 年にかけて減少した後、インバウンドブームの影響もあり、18 年以降は着実に増加している。市町村別では、白浜町、田辺市、新宮市や那智勝浦町が増加している一方で、和歌山市や高野町はほぼ横ばいで推移している。また、施設タイプ別でみれば、白浜町や田辺市では、民泊やゲストハウスが近年増加しているのが特徴といえよう。
3. エリア別宿泊者数、外国人宿泊者比率をみれば、高野町では、日本人宿泊者数はおおむね同水準で推移しているが、外国人宿泊者比率は右肩上がりの上昇し、足下 2019 年では約 5 割となっている。TKTB 地域では、日本人宿泊者が 16 年をピークに減少傾向を示す一方、外国人宿泊者比率は上昇傾向し、外国人宿泊者数が増加している。白浜町では、日本人宿泊者数は 12 年以降減少傾向で推移したが、16 年に底打ちし、以降は増加傾向を示している。一方、外国人宿泊者比率は 17 年に向け上昇傾向を示し、以降 7～8%台で推移している。
4. 各エリアの外国人宿泊者を国籍別にみれば、(1)高野町は、2012～19 年を通じて、欧米豪のシェアが 3 割強と高く、中でもフランスが 1～2 割程度を占めている。一方、アジア地域のシェアも 1 割程度を占めており、特徴のある地域となっている。(2)TKTB 地域では、東アジア地域のシェアが 5 割程度高く、なかでも台湾のシェアが 13 年には単独で約 5 割を占める。また、欧米豪や東南アジア地域のシェアも上昇しており、うち、スペインのシェアは 19 年には 4%程度まで拡大している。(3)TKTB 地域を「熊野古道」ルートに限定すれば、東アジアのシェアが縮小する一方で、欧米豪のシェアが 5 割弱と大幅上昇していることがわかる。(4)白浜町では、東アジア地域が 7 割超のシェアとなっており、中でも中国のシェアが年々拡大し、足下 19 年では 33.5%と最も高い。一方、欧米豪のシェアは、19 年には 5.3%へと拡大しているが、高野町や TKTB 地域と比較すると小さい。
5. TKTB 地域と熊野古道ルートの比較で明らかになったように、地域全体ではアジア地域のシェアが高いが、「熊野古道」ルートに限定すれば欧米豪地域のシェアが高い。このことは、アジア地域のシェアが高い白浜町から熊野古道ルートの起点である旧田辺市、終点である新



宮市、那智勝浦町へアジア人が周遊している可能性が高い。すなわち、一層の地域連携のたかまりが周遊性を拡大させる可能性を示唆していると考えられる。

6. これまで多くの DMO では、単価の高い欧米豪へとインバウンドターゲット層をシフトさせてきたが、コロナ禍でこの戦略が変更を迫られている<sup>18</sup>。例えば、TKTB では、これまでの実績から欧米豪を引き続きターゲット層とする一方で、国内観光客の一層の開拓も重視している。持続可能な経営の観点からすれば、インバウンド需要が完全に消滅している現在では、これまでの内外比率を見直すことが喫緊の課題となっている。このことは、欧米豪の高い高野町においても同様であり、国内観光客の新たなターゲット層の開拓が課題とされている。

## おわりに

アジア太平洋研究所(2019)で示したように、インバウンド需要の長期の決定要因としてブランド力の磨き上げが重要であることを指摘した。また、短期的な要因としては、自然災害やパンデミックを指摘した。今、まさにコロナ禍のようなパンデミックに上手く対応しつつ、ブランド力の一層の磨き上げで、持続可能な観光業を目指さなければならない。

本分析と 2021 年度の APIR シンポジウムで明らかになった DMO の課題は<sup>19</sup>、地域を支える特色のある DMO としてあり続けることである。そのためには、安定的な財源確保をするための施策や新事業に取り組むための人材確保が急務となろう。今回、新たに気付かされたことはコロナ禍の影響の大きさであり、具体的な課題は、インバウンドと国内観光のバランスをどのように保つかである。また、インバウンドについても、水際対策の慎重な見通しのもとに、国籍比率を柔軟に見直す必要もあろう。このように、慎重な分析を踏まえた現実的なインバウンド需要の回復スケジュールを想定した対外戦略と、一方で国内観光の更なる磨き上げが重要となる。インバウンドのみならず国内を含めた観光産業全体の高付加価値化を目指すことが課題となっている。これらの課題に応えるためにも、次の報告ではタイプの異なる DMO(奈良県)について分析を行っていく。

<sup>18</sup> TKTB は、コロナ禍における対応策として、熊野古道の保全を目的としたクラウドファンディングによる資金調達を行った。また、新しい旅行様式に対応すべく、「一人旅」、「女子旅」をキーワードとしたツアーコンテンツの造成等を実施した(表 3 及びアジア太平洋研究所(2021)を参照)。結果、観光庁から令和 2 年度重点支援 DMO 取組事例集においてベストプラクティスとして紹介された(<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html>)。

<sup>19</sup>2021 年度 APIR が開催したシンポジウム(アジア太平洋研究所(2022)を参照)において、TKTB の今後の展開としては、森林環境教育など自然を活用したコンテンツを開発し、新たな国内観光需要層の掘り起こしが提案されている。

## 参考文献

- アジア太平洋研究所(2019), 『アジア太平洋と関西—関西経済白書 2019』, 第 5 章 1 節 pp.159-160, 丸善出版株式会社, 2019 年 9 月。
- アジア太平洋研究所(2021), 『2020 年度 APIR シンポジウム インバウンド先進地域としての関西-コロナ禍の振り返りと今すべきこと-』, 2021 年 3 月。
- アジア太平洋研究所(2021), 『アジア太平洋と関西—関西経済白書 2021』, 第 5 章 2 節, 日経印刷株式会社, 2021 年 10 月。
- アジア太平洋研究所(2022), 『2021 年度 APIR シンポジウム コロナ禍で見えてきた、これからの観光地域づくり-変革を迫られる DMO-』, 2022 年 3 月。
- 稲田義久・古山健大・野村亮輔(2022), 「DMO のインバウンド誘客の取組とその効果 -マーケティング・マネジメントエリアに着目した分析: 京都府の事例から-」, APIR Trend Watch No.76, 2022 年 1 月 7 日, (<https://www.apir.or.jp/research/10533/>, 最終確認 2022 年 3 月 22 日)。
- 観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画:(一社)高野町観光協会」(<https://www.mlit.go.jp/common/001322922.pdf>, 最終閲覧日: 2022 年 3 月 23 日)。
- 観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画:(一社)田辺市熊野ツーリズムビューロー」(<https://www.mlit.go.jp/common/001279929.pdf>, 最終閲覧日: 2022 年 3 月 23 日)。
- 観光庁(2021)「登録観光地域づくり法人『登録 DMO』の形成・確立計画:(一社)南紀白浜観光協会」(<https://www.mlit.go.jp/common/001279930.pdf>, 最終閲覧日: 2022 年 3 月 23 日)。
- 和歌山県(2017)『観光客動態調査報告書 平成 29 年』, ([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/062400/doutai2\\_d/fil/H29doutaichousa.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/062400/doutai2_d/fil/H29doutaichousa.pdf), 最終閲覧日: 2022 年 3 月 23 日)。
- 和歌山県(2021), 『和歌山県観光振興実施行動計画(観光振興アクションプログラム 2021)』, ([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/062400/actionprogram2016\\_d/fil/00AP.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/062400/actionprogram2016_d/fil/00AP.pdf), 最終閲覧日: 2022 年 3 月 19 日)。

参考図表 1 和歌山県の延べ宿泊者数の推移：2010-20年

年	観光 入込客数	日帰り客数	宿泊客総数	日本人 宿泊者数	外国人 宿泊者数	外国人比率
	実数：人	実数：人	実数：人泊	実数：人泊	実数：人泊	%
2010	30,966,546	25,876,001	5,090,545	4,955,743	134,802	2.6%
2011	27,617,429	23,277,960	4,339,469	4,259,131	80,338	1.9%
2012	29,160,889	24,514,267	4,646,622	4,529,263	117,359	2.5%
2013	30,015,506	25,049,509	4,965,997	4,754,243	211,754	4.3%
2014	30,821,244	25,640,005	5,181,239	4,877,665	303,574	5.9%
2015	33,399,381	27,713,275	5,686,106	5,258,512	427,594	7.5%
2016	34,869,979	29,622,907	5,247,072	4,746,881	500,191	9.5%
2017	33,759,049	28,592,988	5,166,061	4,690,433	475,628	9.2%
2018	34,618,849	29,207,710	5,411,139	4,931,976	479,163	8.9%
2019	35,432,866	29,930,808	5,502,058	5,000,214	501,844	9.1%
2020	24,784,172	21,540,204	3,243,968	3,198,963	45,005	1.4%

年	観光 入込客数	日帰り客数	宿泊客総数	日本人 宿泊者数	外国人 宿泊者数	日本人 宿泊者数	外国人 宿泊者数
	前年比：%	前年比：%	前年比：%	前年比：%	前年比：%	寄与度：%pt	寄与度：%pt
2010							
2011	-10.8	-10.0	-14.8	-14.1	-40.4	-13.7	-1.1
2012	5.6	5.3	7.1	6.3	46.1	6.2	0.9
2013	2.9	2.2	6.9	5.0	80.4	4.8	2.0
2014	2.7	2.4	4.3	2.6	43.4	2.5	1.8
2015	8.4	8.1	9.7	7.8	40.9	7.4	2.4
2016	4.4	6.9	-7.7	-9.7	17.0	-9.0	1.3
2017	-3.2	-3.5	-1.5	-1.2	-4.9	-1.1	-0.5
2018	2.5	2.1	4.7	5.1	0.7	4.7	0.1
2019	2.4	2.5	1.7	1.4	4.7	1.3	0.4
2020	-30.1	-28.0	-41.0	-36.0	-91.0	-32.7	-8.3

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

参考図表 2 和歌山県市町村別延べ宿泊者数：2019年

単位	宿泊者総数	日本人 宿泊者数	外国人 宿泊者数	外国人比率	単位	宿泊者総数	日本人 宿泊者数	外国人 宿泊者数	外国人比率
	人泊	人泊	人泊	%		人泊	人泊	人泊	%
和歌山市	1,016,405	910,506	105,899	10.4%	有田川町	19,201	19,132	69	0.4%
海南市	5,254	1,372	3,882	73.9%	美浜町	9,408	9,393	15	0.2%
橋本市	67,281	67,072	209	0.3%	日高町	28,506	28,488	18	0.1%
有田市	28,733	28,462	271	0.9%	由良町	17,346	16,901	445	2.6%
御坊市	56,500	56,102	398	0.7%	印南町	4,091	3,641	450	11.0%
田辺市	466,629	415,703	50,926	10.9%	みなべ町	176,054	146,286	29,768	16.9%
新宮市	146,822	134,318	12,504	8.5%	日高川町	24,677	24,588	89	0.4%
紀の川市	11,774	11,397	377	3.2%	白浜町	2,027,448	1,922,100	105,348	5.2%
岩出市	45,340	22,870	22,470	49.6%	上富田町	30,330	29,361	969	3.2%
紀美野町	36,730	36,437	293	0.8%	すさみ町	26,949	26,002	947	3.5%
かつらぎ町	39,051	38,910	141	0.4%	那智勝浦町	368,411	331,389	37,022	10.0%
九度山町	1,181	1,030	151	12.8%	太地町	21,996	20,267	1,729	7.9%
高野町	224,393	115,400	108,993	48.6%	古座川町	5,523	5,471	52	0.9%
湯浅町	55,859	44,404	11,455	20.5%	北山村	5,625	5,576	49	0.9%
広川町	3,754	3,744	10	0.3%	串本町	530,787	523,892	6,895	1.3%

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

参考図表 3 市町村別宿泊施設数：2010、15-20年

単位：軒

高野町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	田辺市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	1	5	1	0	51	0	0	58	2010年	14	30	42	0	1	1	0	88
2015年	1	1	0	0	50	0	0	52	2015年	13	27	49	0	0	1	0	90
2016年	1	1	0	0	51	0	0	53	2016年	13	28	48	0	0	1	0	90
2017年	1	0	0	1	52	0	0	54	2017年	15	27	48	9	0	2	0	101
2018年	0	0	0	1	52	0	0	53	2018年	15	27	46	15	0	3	4	110
2019年	0	0	0	2	52	0	0	54	2019年	15	25	50	16	0	4	6	116
2020年	0	0	0	4	52	0	0	56	2020年	13	24	55	23	0	4	9	128
新宮市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	那智勝浦町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	8	8	8	0	0	0	0	24	2010年	4	16	25	0	0	2	0	47
2015年	9	7	7	0	0	0	0	23	2015年	5	13	24	0	0	2	0	44
2016年	9	7	7	0	0	0	0	23	2016年	5	13	24	0	0	2	0	44
2017年	9	7	6	0	0	0	0	22	2017年	9	4	12	0	0	0	0	25
2018年	10	7	5	0	0	0	13	35	2018年	4	13	11	12	0	0	1	41
2019年	10	7	5	0	0	0	18	40	2019年	5	12	11	18	0	0	1	47
2020年	9	2	6	0	0	0	27	44	2020年	5	12	11	22	0	0	1	51
白浜町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	和歌山市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	8	26	82	0	0	31	0	147	2010年	20	37	8	0	0	1	0	66
2015年	8	25	86	0	0	25	0	144	2015年	21	30	8	0	0	0	0	59
2016年	6	25	86	0	0	25	0	142	2016年	22	25	7	0	0	0	0	54
2017年	11	28	82	12	0	28	0	161	2017年	23	20	9	6	0	0	0	58
2018年	12	28	79	15	0	30	14	178	2018年	26	20	9	7	0	0	4	66
2019年	12	29	77	16	0	29	96	259	2019年	26	20	8	8	0	0	4	66
2020年	12	27	73	17	0	27	141	297	2020年	29	14	7	9	0	0	9	68

注：数値はホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、宿坊、寮/保養所・貸別荘、民泊の施設合算したもので、その他施設(国民宿舎、国民休暇村、ユースホステル、青少年旅行村、青年の家/少年自然の家、年金保養センター、キャンプ場、その他)を除いていることに注意。

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

参考図表 4 市町村別宿泊施設収容力：2010、15-20年

単位：人

高野町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	田辺市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	28	96	0	0	6,779	0	0	6,903	2010年	602	1,891	970	0	80	20	0	3,563
2015年	28	10	0	0	6,649	0	0	6,687	2015年	553	1,721	898	0	0	20	0	3,192
2016年	28	10	0	0	6,693	0	0	6,731	2016年	553	1,784	849	0	0	20	0	3,206
2017年	30	0	0	13	6,185	0	0	6,228	2017年	1,333	1,734	892	109	0	26	0	4,094
2018年	0	0	0	13	6,185	0	0	6,198	2018年	1,333	1,734	866	151	0	33	12	4,129
2019年	0	0	0	23	6,185	0	0	6,208	2019年	1,318	1,653	862	154	0	41	21	4,049
2020年	0	0	0	44	6,185	0	0	6,229	2020年	1,188	1,627	857	221	0	41	62	3,996
新宮市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	那智勝浦町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	454	223	175	0	0	0	0	852	2010年	149	5,763	446	0	0	107	0	6,465
2015年	640	198	167	0	0	0	0	1,005	2015年	238	5,487	432	0	0	105	0	6,262
2016年	640	198	167	0	0	0	0	1,005	2016年	238	5,487	432	0	0	105	0	6,262
2017年	700	198	144	0	0	0	0	1,042	2017年	1,400	2,050	243	0	0	0	0	3,693
2018年	776	198	129	0	0	0	90	1,193	2018年	211	4,498	269	69	0	0	6	5,053
2019年	776	198	134	0	0	0	150	1,258	2019年	235	2,165	269	117	0	0	6	2,792
2020年	684	55	140	0	0	0	198	1,077	2020年	234	3,108	269	189	0	0	6	3,806
白浜町	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計	和歌山市	ホテル	旅館	民宿	ゲストハウス	宿坊	寮/保養所 貸別荘	民泊	計
2010年	1,475	6,443	2,951	0	0	1,212	0	12,081	2010年	2,455	2,624	210	0	0	37	0	5,326
2015年	1,516	6,130	2,997	0	0	889	0	11,532	2015年	3,115	2,298	218	0	0	0	0	5,631
2016年	1,421	5,827	2,826	0	0	889	0	10,963	2016年	3,109	2,052	174	0	0	0	0	5,335
2017年	2,423	6,264	2,485	319	0	906	0	12,397	2017年	3,353	1,613	212	182	0	0	0	5,360
2018年	2,562	6,107	2,487	404	0	920	219	12,699	2018年	3,592	1,425	206	198	0	0	0	5,421
2019年	2,436	6,012	2,420	386	0	880	908	13,042	2019年	3,695	1,422	164	233	0	0	0	5,514
2020年	2,436	5,565	2,288	407	0	719	1,105	12,520	2020年	3,971	1,306	127	215	0	0	0	5,619

注：数値はホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、宿坊、寮/保養所・貸別荘、民泊の施設合算したもので、その他施設(国民宿舎、国民休暇村、ユースホステル、青少年旅行村、青年の家/少年自然の家、年金保養センター、キャンプ場、その他)を除いていることに注意。

出所：和歌山県『観光客動態報告書』より筆者作成。

参考図表 5 延べ宿泊者数の地域別および属性別シェアの推移：2012-19年

年	高野町							TKTB地域						
	(延数：人泊)			%	(県内シェア)(%)			(延数：人泊)			%	(県内シェア)(%)		
	全宿泊者	日本人	外国人	外国人 宿泊者比率	全宿泊者	日本人	外国人	全宿泊者	日本人	外国人	外国人 宿泊者比率	全宿泊者	日本人	外国人
2012	39,822	32,968	6,854	17.2	1.5	1.3	9.1	634,402	619,301	15,101	2.4	23.9	24.0	19.9
2013	53,517	43,869	9,648	18.0	2.0	1.7	7.9	694,638	668,392	26,246	3.8	26.4	26.6	21.5
2014	39,181	26,104	13,077	33.4	1.6	1.1	6.9	559,028	537,233	21,795	3.9	22.3	23.2	11.5
2015	52,835	39,377	13,458	25.5	2.0	1.6	5.1	505,598	478,997	26,601	5.3	19.0	20.0	10.2
2016	39,860	24,596	15,264	38.3	1.5	1.0	4.7	816,647	755,592	61,055	7.5	30.1	31.6	18.8
2017	62,439	37,396	25,043	40.1	2.2	1.5	8.4	787,735	724,021	63,714	8.1	27.4	28.1	21.4
2018	80,637	41,785	38,852	48.2	2.8	1.6	12.9	719,791	663,011	56,780	7.9	25.1	25.8	18.9
2019	73,896	38,905	34,991	47.4	2.5	1.5	11.4	621,308	568,271	53,037	8.5	21.0	21.4	17.2

年	白浜町							和歌山県						
	(延数：人泊)			%	(県内シェア)(%)			(延数：人泊)			%	(伸び率)(%)		
	全宿泊者	日本人	外国人	外国人 宿泊者比率	全宿泊者	日本人	外国人	全宿泊者	日本人	外国人	外国人 宿泊者比率	全宿泊者	日本人	外国人
2012	1,137,478	1,117,259	20,219	1.8	42.8	43.3	26.7	2,656,658	2,580,959	75,699	2.8			
2013	1,081,313	1,039,951	41,362	3.8	41.1	41.4	33.9	2,631,122	2,509,035	122,087	4.6	-2.8	-2.8	61.3
2014	1,061,794	995,540	66,254	6.2	42.4	43.1	34.8	2,501,685	2,311,532	190,153	7.6	-7.9	-7.9	55.8
2015	1,050,606	992,119	58,487	5.6	39.5	41.4	22.3	2,660,860	2,399,077	261,783	9.8	3.8	3.8	37.7
2016	837,112	775,880	61,232	7.3	30.8	32.5	18.8	2,714,353	2,389,417	324,936	12.0	-0.4	-0.4	24.1
2017	876,508	803,096	73,412	8.4	30.5	31.2	24.7	2,873,752	2,575,989	297,763	10.4	7.8	7.8	-8.4
2018	940,269	875,268	65,001	6.9	32.8	34.1	21.7	2,868,447	2,568,353	300,094	10.5	-0.3	-0.3	0.8
2019	1,017,364	943,264	74,100	7.3	34.4	35.6	24.1	2,958,985	2,651,223	307,762	10.4	3.2	3.2	2.6

出所：観光庁『宿泊旅行統計調査』個票データより筆者作成。

<APIR 研究統括/数量経済分析センター長 稲田 義久、調査役兼研究員 古山 健大、研究員 野村 亮輔、contact@apir.or.jp, 06-6485-7690>

- ・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・本レポートは信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。